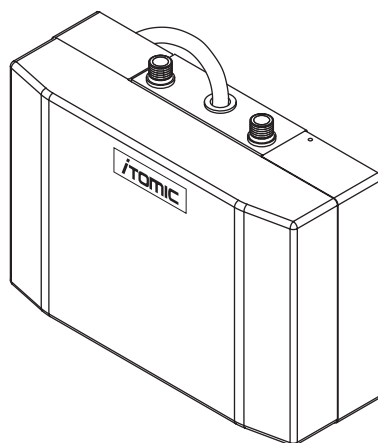




工事要領・取扱説明書

製品名： 超小型電気瞬間湯沸器

型 式： DE-5.6-N



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によく読みになり、理解した上で設置・ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、本書をご使用になる方に必ずお渡してください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。
（この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らないで発生した事故について、
弊社は責任を負いません。）

株式会社 **イトミック**

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル

TEL:03 (3621) 2121 (大代表) FAX:03 (3621) 2130

フロント課（修理依頼承り先）

TEL:03 (3621) 2161(代表) FAX:03 (3621) 2163

もくじ

共通項目	2
安全上のご注意	3
DE-5.6-Nについて	5
各部名称	5
仕 様	5
工事要領	6
施工前にご確認ください	7
1. 部品の確認	7
2. 設置場所の確認	8
施工する	9
1. 設置工事	9
2. 配管工事	10
3. 電気工事	11
4. 試運転	11
5. 施工後の確認	13
取扱説明	14
使用方法	15
1. 使用前の準備と確認	15
2. 出湯する	16
長期間使用しないときは	17
お手入れの方法	17
保守点検項目と実施の目安	17
外装の清掃	18
こんなときは	19
管理技術者の方のみ リセットの方法	21
アフターサービス	22
消耗品について	22
修理をご依頼の際には	22

共通項目

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただく事項を記載しました。設置の前に、本書を必ずお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。

 **警告** この表示の欄は、『死亡または重傷を負う可能性が想定される』内容です。

 **注意** この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。



△の記号は、注意(警告を含む)をうながす事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
(左図の場合は高温注意を意味します。)



⊘の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
⊘の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は分解禁止を意味します。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと、という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

 警告	
	アース(D種接地)工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の±10%以内でお使いください。 故障・火災の原因になります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	給湯側の配管途中に必ず安全弁(付属品)を取り付けてください。 万一の不動作で、湯沸器の破裂のおそれがあります。
	本体は必ず垂直に設置してください。 破裂・故障の原因となります。
	絶対に改造はしないでください。 火災・感電・やけどやケガの原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。
	給湯配管は鳥居配管しないでください。 破裂・故障の原因となります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。

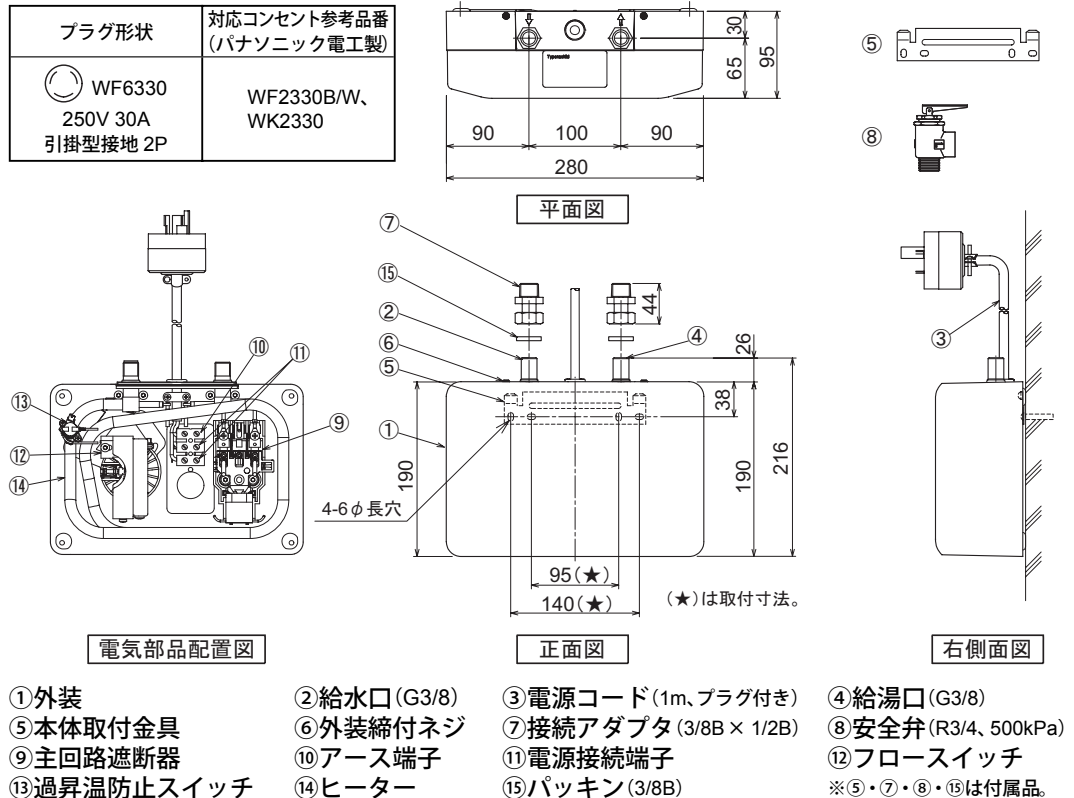
⚠警告	
	濡れた手で電源プラグに触れないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	安全弁点検時は、安全弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠注意	
	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。
	湯沸器の運転質量に十分耐えられる強度を持った壁面に必ず垂直に設置してください。 落下の原因になります。
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因になります。
	長期間のご使用によって配管内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色・にごり・異臭があった場合は飲用にしないでください。給湯温度が 60℃以下の場合は、今一度やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	床面に防水・排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因になります。
	給湯配管距離は最長で 6m 以内としてください。 破損や故障の原因になります。
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破裂してやけどをするおそれがあります。
	給水温度は必ず 0 ～ 35℃の範囲でお使いください。 機器故障の原因となります。

DE-5.6-Nについて

イトミックのDE-5.6-Nは超小型の壁掛型電気瞬間湯沸器です。出湯量（流量）により温度が変化する号数換算 3.2号の性能と安全性を両立した製品です。

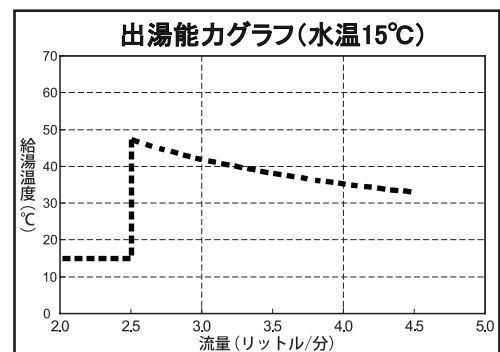
各部名称



仕 様

標準電源	単相 200V
ヒーター容量	5.6kW
定格電流	28.0A
発生熱量	20.2MJ/h
号数換算	3.2号 (※1)
使用流量範囲	約 2.5 ～ 4.5 リットル/分 (※2)
温度上昇値	約 32 ～ 18℃
給水方式	先止め式
給水圧力	0.15 ～ 0.4MPa
安全装置	過昇温防止スイッチ (※3)
本体質量	2.9kg
使用水温	0 ～ 35℃ (※4)
周囲温度	0 ～ 40℃ (※4)
湿度	10 ～ 60% (※5)
本体寸法	幅 280 × 高さ 190 × 奥行 95mm
設置場所	屋内

- (※1)・・・号数とは、水温から25℃上昇させた時の毎分の出湯量を表します。
 (※2)・・・使用流量範囲の最低流量以下では動作しません。
 (※3)・・・約 75℃で作動し、ヒーターへの通電をストップします。
 (※4)・・・但し、凍結のないこと。
 (※5)・・・但し、結露のないこと。



工事要領

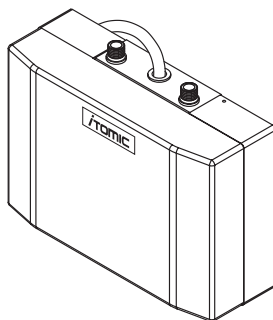
正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

施工前にご確認ください

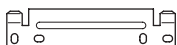
1. 部品の確認

【製品に同梱されています】

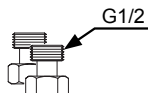
DE-5.6-N 本体



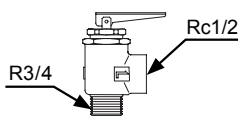
付属品



本体取付金具



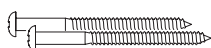
接続アダプタ×2
(3/8B×1/2B)



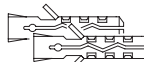
安全弁 0.5MPa
(3/4B×1/2B)



パッキン×2
(3/8B)



木ネジ×2



ナイロンプラグ×2



工事要領・取扱説明書×1
当冊子です。工事終了後は湯沸器
をご使用になる方へお渡しください。

※当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。

【お客様にて必ずご手配ください】

お客様手配品 (→ P.10「標準配管図」参照)

- ①混合水栓 湯沸器には出湯温度を調節する機能がないため必要です。
- ②給水・給湯配管 給水および混合水栓への給湯を湯沸器に接続するため必要です。
- ③袋ナット・ユニオン メンテナンスの際に湯沸器・安全弁を取り外せるよう施工するために必要です。
- ④パッキン・シールテープ 配管接続部分から漏水させないために必要です。
- ⑤逆止弁 湯沸器や給湯配管の湯水の逆流を防止します。
- ⑥ストレーナー 湯沸器内へのゴミの流入を防止します。
- ⑦止水栓 流量の調節やメンテナンス等の際に給水を止めるため必要です。
- ⑧漏電ブレーカ 万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA・0.1秒)

上記手配品を必ずご用意ください。

2. 設置場所の確認

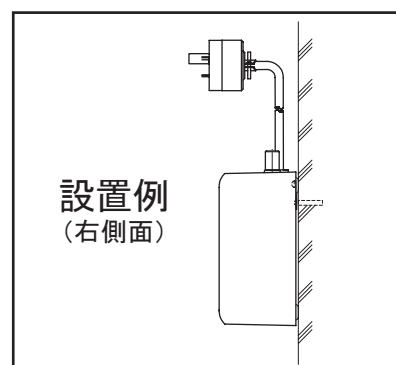
チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
凍結対策	冬季に凍結しない場所ですか？ 冬季に凍結する場合、保温工が必要になります。	☐
メンテナンススペース	メンテナンスのために本体を取り外せるスペースは確保されていますか？ メンテナンススペースが取られていないと、修理やメンテナンスの際に製品を取り外すことができません。	☐
配管距離	給湯配管距離が最長 6m 以内で収まる場所ですか？ 給湯場所が機器より離れすぎている場合は動作が鈍くなり、同時にヒーターの余熱により安全装置が作動します。配管は必ず最長で6m迄としてください。	☐
取付壁面	垂直な壁面ですか？ 垂直であれば上下左右は自在ですが、垂直でない場合はお取り付けいただけません。	☐
	本体質量の約 2.9kgに耐えられる壁面ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	☐
コンセントの有無	電源コード(1m)が届く範囲にコンセントはありますか？ 無い場合は取り付けや増設が必要です。	☐
給水圧力	給水圧力は0.15MPa ～ 0.4MPaの間になっていますか？ 湯沸器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。	☐

DE-5.6-N 型の離隔距離

この湯沸器は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。

消防法 基準適合 組込形	
場所	離隔距離 (cm)
上方	0
左方	0
右方	0
前方	0
後方	0
下方	0



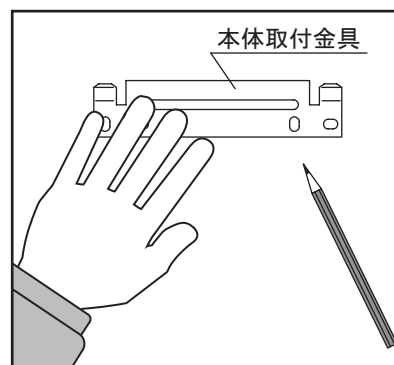
施工する

1. 設置工事

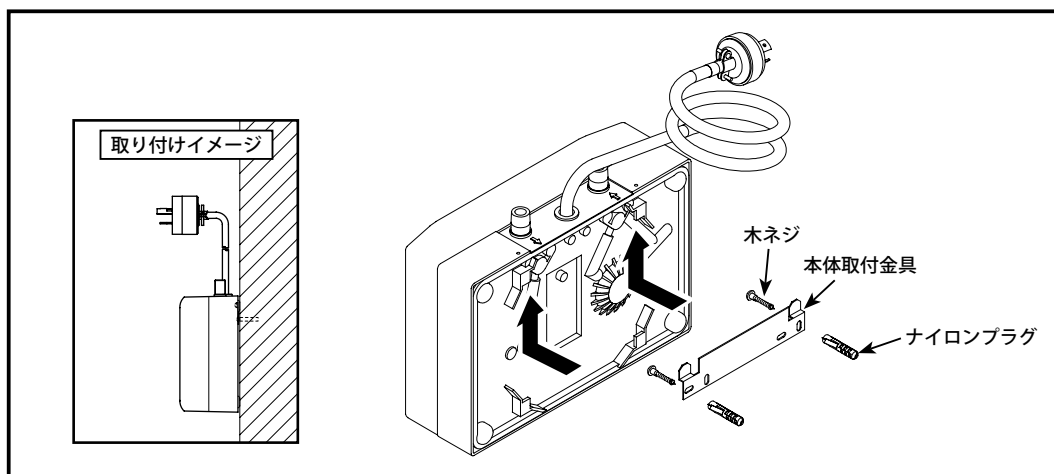
⚠ 警告	
❗	本体は必ず垂直に設置してください。 破裂・故障の原因となります。
⊘	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
⊘	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。
⊘	湿気の多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠ 注意	
❗	湯沸器の運転質量に十分耐えられる強度を持った壁面に必ず垂直に設置してください。 落下の原因となります。
❗	床面に防水・排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

- ①取り付ける壁にネジ用の印をつけます。



- ②壁にドリルで穴を開け、付属のナイロンプラグを打ち込みます。その後、付属の木ネジで本体取付金具を固定し、湯沸器を本体取付金具の爪に引っかけて固定します。



2. 配管工事

⚠警告



給湯側の配管途中に必ず安全弁（付属品）を取り付けてください。
万一の不動作で、湯沸器の破裂のおそれがあります。



給湯配管は鳥居配管しないでください。
破裂・故障の原因となります。

⚠注意



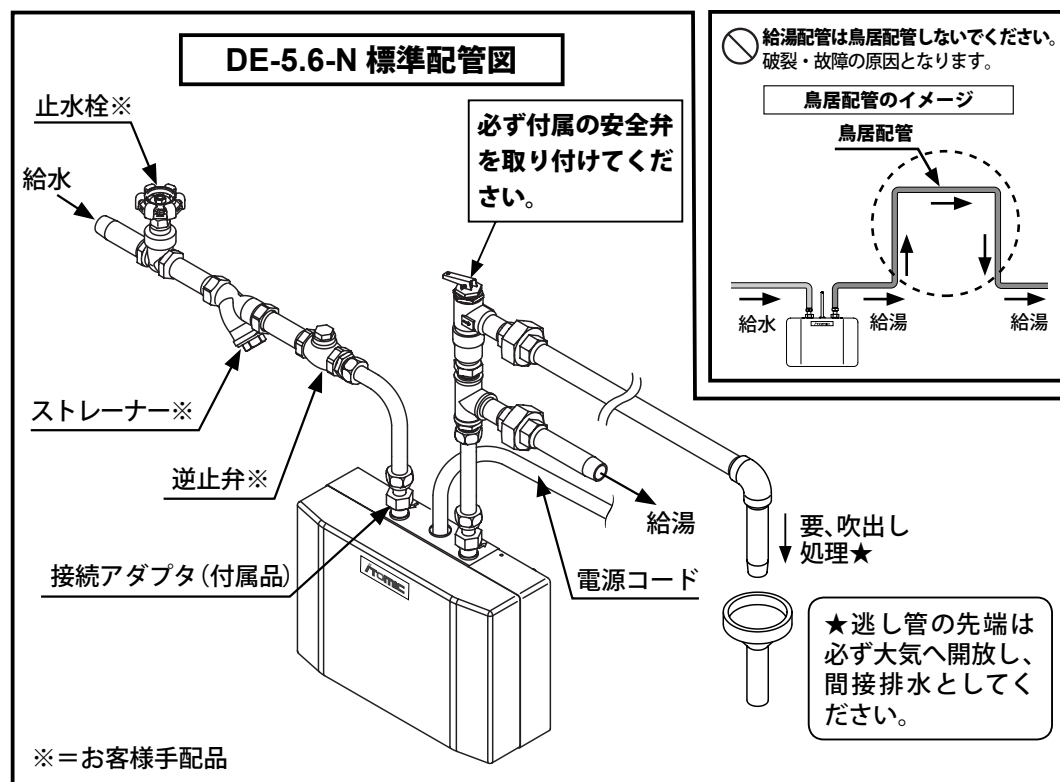
給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。
漏水の原因になります。

規定の給水圧力にてご使用ください。
誤動作や故障の原因になります。

給湯配管距離は最長で 6m 以内としてください。
破損や故障の原因になります。

水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。
タンクや配管が破裂してやけどをするおそれがあります。

- ① 給水一次側にお客様手配品の逆止弁・ストレーナー・止水栓を取り付けてください。（※給水圧力が0.4MPaを越える場合は、減圧弁を取り付けてください。）
- ② 給水および給湯接続口に入っている運搬用キャップを取り外した後、付属の接続アダプタを取り付け、配管と接続してください。
- ③ 給湯側に付属の安全弁（0.5MPa）を必ず取り付けてください。



3. 電気工事

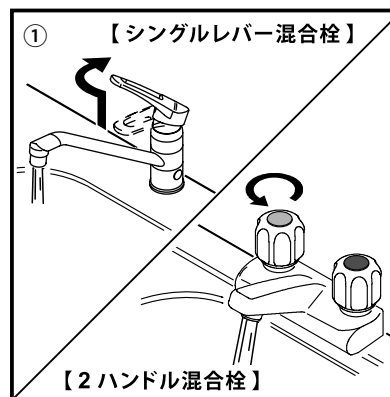
⚠ 警告	
	アース (D種接地) 工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の± 10%以内でお使いください。 故障・火災の原因になります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災・感電・やけどやケガの原因となります。
	設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。

電源一次側にお客様手配品の漏電ブレーカを取り付け、D種設置工事を行ってください。

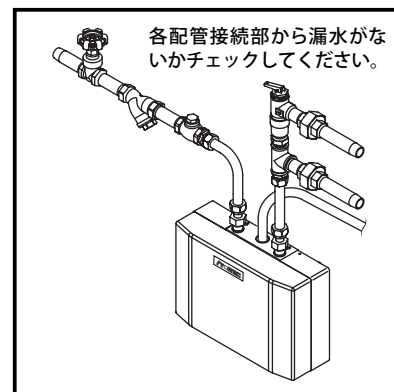
4. 試運転

⚠ 警告	
	濡れた手で電源プラグに触れないでください。 感電のおそれがあります。
	使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

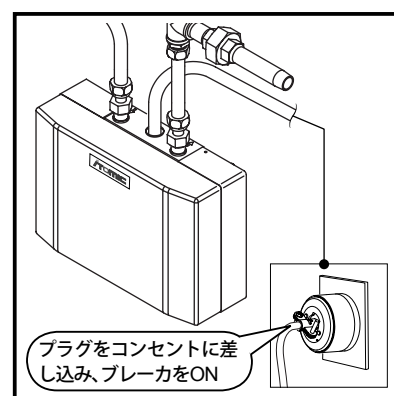
- ① 止水栓および混合水栓の湯側を全開にして、混合水栓より水が出ることを確認してください。
- ② そのまま水を出し続け、配管内の不純物などを流し切ってストレーナーの清掃をしてください。



- ③ 混合水栓を閉じて接続部分から漏水がないかチェックしてください。



- ④ 電源プラグをコンセントに差し込み、漏電ブレーカをONにしてください。



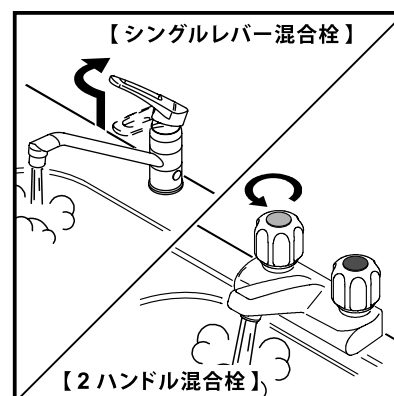
- ⑤ 混合水栓の湯側を開き、水温が上昇することを確認してください。水温が上昇することを確認できれば正常です。

混合水栓を開いても流量が少ない場合（毎分 2.5ℓ未満）では通電しないため、水温は上昇しません。必ず仕様表（P.5）に記載されている使用流量範囲内でお使いください。



警告

確認の際には熱湯にご注意ください。
やけどの危険があります。



5. 施工後の確認

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
漏 水	各配管、継手に漏水はないですか？	☐
電 圧	定格電圧(単相 200V) ± 10% 以内ですか？	☐
ヒーター絶縁抵抗	1MΩ以上ありますか？	☐
ストレーナー	ストレーナーの中にゴミ詰まりはないですか？	☐
安全弁	給湯側に設置されていますか？また、吹き出ていませんか？	☐
給 湯	混合水栓を開くと水温が上昇しますか？	☐

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

⚠警告	
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	濡れた手で電源プラグに触れないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	湿気が多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠注意	
	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。
	長期間のご使用によって配管内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色・にごり・異臭があった場合は飲用にしないでください。給湯温度が 60℃以下の場合は、今一度やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因となります。
	給水温度は必ず 0 ～ 35℃の範囲でお使いください。 機器故障の原因となります。

1. 使用前の準備と確認

ご使用の前に次の事をご確認ください。

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物がないですか？	☐
	本体の上には物などを載せていませんか？	☐
	安全弁が吹き出ていませんか？	☐

2. 出湯する

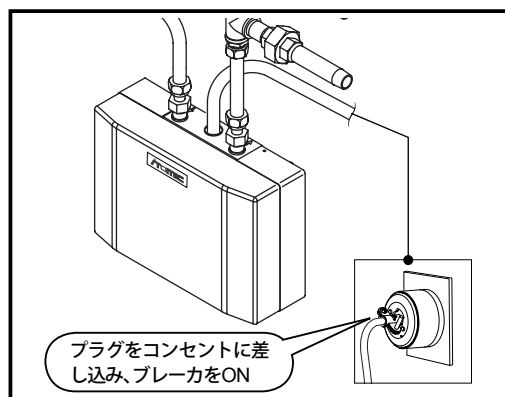
⚠警告



濡れた手で電源プラグに触れないでください。
感電のおそれがあります。

使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。
やけどのおそれがあります。

- ① 電源プラグをコンセントに差し込み、漏電ブレーカをONにしてください。



- ② 混合水栓を操作して、給湯してください。

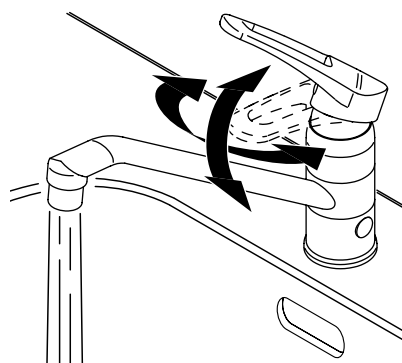
【2ハンドル式でご使用の場合】

出湯する：給湯栓だけを開ける



【シングルレバー式でご使用の場合】

熱くする：レバーを左へ回す
ぬるくする：レバーを右へ回す



DE-5.6-Nには水の流れを検知するフロースイッチが組み込まれており、混合水栓を開いて流した水の量を感知することでヒーターへの通電を開始し、お湯を沸かします。

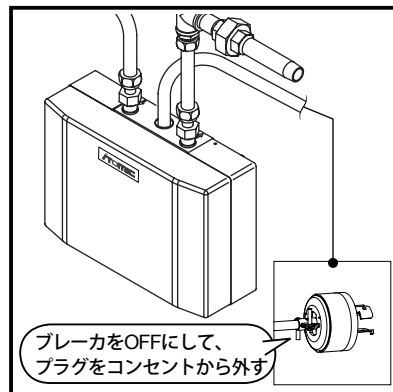


使用中、給水圧力が0.15MPa以下または出湯量（流量）が毎分2.5ℓ未満になるとヒーターへの通電がストップし、お湯になりません。
他の給水による水圧変化や混合水栓の絞りすぎにはご注意ください。

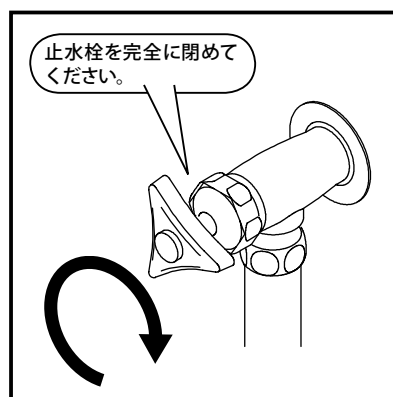
また、お湯の温度は混合水栓および止水栓の開き具合により変化しますので、季節やお好みに合わせて調整してください。

長期間使用しないときは

- ① 長期間運転を休止する場合は、漏電ブレーカをOFFにし、電源プラグをコンセントから外してください。



- ② 止水栓を閉め、給水を止めてください。



お手入れの方法

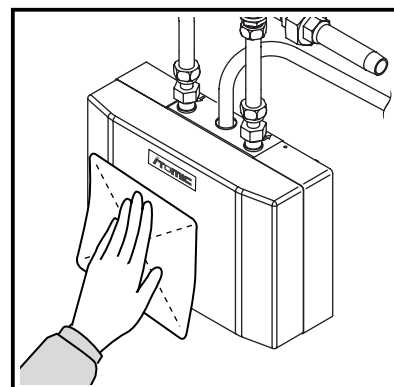
保守点検項目と実施の目安

⚠ 警告	
!	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	給湯側の配管途中に必ず安全弁（付属品）を取り付けてください。 万一の不動作で、湯沸器の破裂のおそれがあります。
🚫	濡れた手で電源プラグに触れないでください。 感電のおそれがあります。
	安全弁点検時は、安全弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

点検項目	点検内容	点検の目安
管理技術者の方のみ 電圧の測定	定格電圧の±10%の範囲で使用されていることを確認してください。過電圧はヒーター断線の原因になります。また、低電圧の場合は能力が低下します。	1回/月
管理技術者の方のみ 電流値の測定	定格電流の±10%の範囲で使用されていることを確認してください。使用開始時と再使用時には特にご注意ください。	
管理技術者の方のみ ヒーター絶縁抵抗測定	絶縁抵抗計(DC500Vメガー)にて測定、1MΩ以上あることを確認してください。 ※破損するので操作回路には絶縁抵抗測定をしないでください。	
管理技術者の方のみ 漏電ブレーカの動作確認	地絡事故や感電事故など不測の事故を未然に防ぐため、漏電ブレーカの信頼性を維持する必要があります。定期的に動作確認を行ってください。(P.14「漏電ブレーカの動作確認」参照) 正常動作が確認できなかった場合は、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社へご連絡ください。	
重要 安全弁の動作確認	安全弁のトラブルによる水漏れを防止するために、正常動作の確認は絶対必要です。逃し管から常時水が出ていないか確認してください。(P.23「安全弁の動作確認」参照)	1回/日
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	

外装の清掃

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量にうすめた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは

湯沸器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

状況	ご確認ください	対処方法
水もお湯も出ない または 出が悪い	断水ではありませんか？	水道局へお問い合わせください。断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了した後、お湯が濁っているような場合には濁りがなくなるまで出し続けてください。
	止水栓は適切に開いていますか？	閉じている場合は開いてください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていますか？	ストレーナーの清掃を行なってください。(清掃に関しては設備業者様にお問い合わせください。)
	給水圧力が低すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するための給水圧力は0.15MPa以上必要です。給水圧力が低い場合は設備業者様へご相談ください。
	配管が凍結していませんか？	配管内が凍結すると湯沸器が作動しません。凍結防止処置については設備業者様へご相談ください。
お湯が出ない (水のまま)	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。
	一次側ブレーカがOFFになっていませんか？	原因を取り除いた上でブレーカをONにしてください。漏電や電気容量オーバーの可能性がある場合は使用せずに設備業者様へご相談ください。
	電源プラグは正しくコンセントに差し込まれていますか？	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
	配管は正しく行われていますか？	給湯と給水の配管に間違いがないか設備業者様に確認をご依頼ください。
	給水圧力が低すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するための給水圧力は0.15MPa以上必要です。給水圧力が低い場合は設備業者様へご相談ください。
	出湯量(流量)が少なすぎるのではありませんか？	湯沸器が適切に運転するための出湯量(流量)は2.5～4.5リットル/分の範囲です。(この範囲以下の場合、運転は行われません。)混合水栓や止水栓を調整してください。 止水栓および混合水栓が調整されているにも関わらず流量が適切に取れない場合は、ストレーナーの詰まりで給水圧力が不足している可能性がありますので、設備業者様にご相談ください。
お湯がぬるい	給水温が低すぎませんか？	水温から最高で32℃昇温します。機器能力以上の温度での出湯はできませんのでご了承ください。
	混合水栓の給湯と給水の圧力バランスは取れていますか？(給湯側のバルブは十分開いていますか？)	やけどに注意しながら「湯だけ」・「水だけ」をそれぞれ出して流れる量を比較してください。両方の出方のバランスが取れていない場合は設備業者様へご相談ください。
	流量(出湯量)が多すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するための出湯量(流量)は2.5～4.5リットル/分の範囲です。混合水栓や止水栓を調整してください。
	混合水栓が故障していませんか？	故障の場合は混合水栓メーカーの販売店にご相談ください。

状況	ご確認ください	対処方法
お湯が熱すぎる	給水温が高すぎませんか？	水温と給湯量によって給湯温度は変わります。混合水栓をご使用になって水と混合して給湯を行なってください。
	混合水栓の給湯と給水の圧力バランスは取れていますか？（給湯側のバルブは十分開いていますか？）	やけどに注意しながら「湯だけ」・「水だけ」をそれぞれ出して流れる量を比較してください。両方の出方のバランスが取れていない場合は設備業者様へご相談ください。
	混合水栓が故障していませんか？	故障の場合は混合水栓メーカーの販売店にご相談ください。
汚れたお湯が出る	断水や水道工事が行われていませんか？	濁りがなくなるまで出し続けてください。
	配管が腐食していませんか？	配管のサビ等による赤水が続く場合は設備業者様へご相談ください。
漏水している	どの部分からですか？	湯沸器本体からの場合、すぐに止水栓を閉めてから電源プラグを抜くか漏電ブレーカをOFFにした後、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。 配管接続部からの場合は漏水箇所を締め直してください。

これらの対処を行っても改善されない場合は、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご相談ください。

リセットの方法

管理技術者の方のみ

⚠ 警告



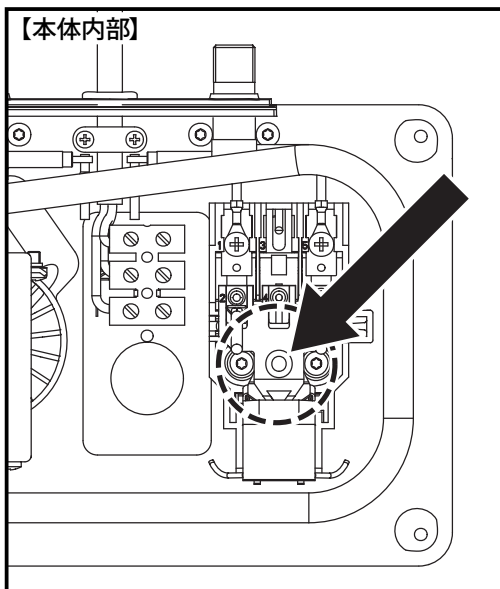
設置時およびリセット操作時以外は外装を開けないでください。
感電・やけどのおそれがあります。

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の管理技術者へご依頼ください。

機器水管部内の温度が約 75℃を超えると自動的に過昇温防止スイッチが働き、運転を停止します。

過昇温防止スイッチが作動した場合は、原因を取り除いた上で下記の手順でリセット操作を行ってください。

- ① 一次側漏電ブレーカをOFFにしてから、電源プラグをコンセントから外します。
- ② 本体カバーを外します。
- ③ 右図矢印部分のリセットボタンをドライバー等で「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- ④ 本体カバーを取り付けます。
- ⑤ 電源プラグをコンセントに差し込み、一次側漏電ブレーカをONにします。



過昇温防止スイッチはフロースイッチのゴミ詰まりや給湯配管が長すぎる場合にも作動しやすくなります。

上記のリセット操作で運転復帰しますが、必ず原因を取り除くようにしてください。ご不明な場合は裏表紙記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までお問い合わせください。

アフターサービス

消耗品について

下記に記載の部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や水漏れを防止するため定期的に交換してください。(下表参照) 交換(有償)・購入のご依頼は弊社フロント課もしくは裏表紙に記載の最寄りの地区販売会社にご依頼ください。

部品名	交換時期の目安	交換いただく理由
安全弁	設置・交換日より5年	長期間で使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や水漏れを起こす可能性があります。水漏れが起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。(※水道水中のミネラル分が固着したもの。)

上記以外でも使用状況によってパッキン類や電子部品交換が必要になる場合があります。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼される時は、P.22の故障状況シートをコピーして必要事項にご記入いただき、FAXにてご送付ください。FAXをお使いになられていない場合は記入事項をお電話にてご連絡ください。

型番等は本体に貼られている保証票に印刷されておりますので、故障状況シートへ転記してください。

保証票 GUARANTEE LABEL	
型番 Model	屋内用
製造番号 Serial No.	
電源・電力	
株式会社 日本イトミック	最高使用圧力 MPa

(株)日本イトミック フロント課 FAX 03-3621-2163 (TEL 03-3621-2161)

※もしくは裏表紙に記載の最寄り地区販売会社へご連絡ください。

故障状況シート			
貴社名		ご担当者名	
ご住所			
TEL		FAX	
製品型番	DE-5.6-N		
電源・電力		製造番号	
設置場所		保証期限	
状態			

アドバイス&メンテナンス

データベース管理と専門技術で安心・快適のサポート。

お買い上げいただいた機器はすべてデータベースに登録。定期点検の時期などを的確に管理し、豊富な経験と優れた技術を兼備した専門スタッフが責任をもってサポートいたします。イトミック製品を安心してお使いいただくとともに快適な温水環境をお届けするため、アドバイスとメンテナンスを心を込めて提供いたします。

アフターサービス(最寄りのイトミック製品販売拠点へ)



一般電話・公衆電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)

0570-011039

携帯電話・PHS・IP電話の場合: **03-3621-2161**

※お電話の前に型番・製造番号をご確認ください。

メンテナンス契約

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社フロント課までご連絡ください。また、部品のご注文もフロント課で承っています。

TEL : **03-3621-2161(代)**

FAX : **03-3621-2163**

24時間サービス体制

夜間専用電話 : 東京 **03-3621-2161**

● ISO9001 認証取得 ● 経済産業省電気用品製造事業届出工場 ● 日本水道協会検査委託登録工場 ● 日本電気工業会正会員 ● 日本ボイラ协会会员 ● 建設業許可

株式会社 日本イトミック

営業本部

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル

TEL 03(3621)2121(大代表) FAX 03(3621)2130

フロント課(保守・部品・修理)

TEL 03(3621)2161(代表) FAX 03(3621)2163

本社工場

〒143-0002 東京都大田区城南島 4-6-8

TEL 03(3799)7311(代表) FAX 03(3799)7310

ホームページ <http://www.itomic.co.jp/>

《地区販売会社・営業所》

北海道地区	●(株)北海道イトミック	〒063-0801 札幌市西区二十四軒 1 条 5-1(ラポール 24 軒 2 号館)	TEL 011(615)6681(代)	FAX 011(615)7004
東北・新潟地区	●(株)東北イトミック	〒981-3125 仙台市泉区みずほ台 4-3	TEL 022(773)6161(代)	FAX 022(773)6213
中部・北陸地区	●(株)中部イトミック	〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-4-12(アレックスビル 3F)	TEL 052(222)2561(代)	FAX 052(222)2559
近畿地区	●(株)関西イトミック(株)	〒541-0041 大阪市中央区北浜 3-7-12(東京建物大阪ビル)	TEL 06(6226)0800(代)	FAX 06(6226)0802
中国・四国地区	●(株)中国イトミック	〒730-0051 広島市中区大手町 1-7-12(徳永ビル)	TEL 082(240)1361(代)	FAX 082(240)1363
九州・沖縄地区	●(株)九州イトミック	〒812-0007 福岡市博多区東比恵 3-28-5	TEL 092(481)3911(代)	FAX 092(481)3930



この印刷物は再生紙と大豆油インクを使用しています。
'09.08-10-1-0.15 ①